

11月30日は「人生会議」の日

大切な人と人生会議を



人生100年代を迎え、喜ばしい反面「自分もいつか認知症になるかもしれない」「大きな病気になるかもしれない」という漠然とした不安を抱えている人も多いのではないのでしょうか。認知症になったときや急な病気になったとき、あなたはどのような介護や医療を受けたいですか？

突然の事故や病気で、自分の思いを伝えることや受けたい医療を決めることが困難になるかもしれません。そんなときのために、あらかじめ大切な人や家族と「人生会議」しておくことが大切です。しかし、何かきっかけがないと、「いつか」と話はしにくいもの。

市では、「人生会議」で話し合うきっかけとして活用することができる「まいつる古い支度ノート」を作製しています。ノートを手に取り、記入できる部分から記入し、それを見ながら大切な人へ思いを伝え、希望する人生を歩むための話し合いをしてみてください。

まいつる古い支度ノートは、ホームページに掲載(左コードからアクセス可)のほか、高齢者支援課、西支所保健福祉係、市内各公民館、東・西図書館で配布しています。古い支度に関する出前講座も実施中。

▼詳しくは、高齢者支援課(☎66・1018)へ。



人生会議とは

アドバンス・ケア・プランニングの愛称で、自分の大切にしていること、どのような医療やケアを望むのかなど、自ら考え、信頼する周りの人たちと話し合っておくこと

ノートの内容
・自分自身のこと
・これまでの生き方(自分史)
・介護や医療についての希望(事前指示書)



文化財保存活用地域計画

地域の宝や文化財を守る

市では、歴史文化遺産の保存・活用に地域社会総がかりで取り組み、ふるさとに対する誇りと愛着の醸成、生きいきとしたまちづくりを深化させることを目的に「舞鶴市文化財保存活用地域計画」を策定。制度発足以降、京都府内では京都市と並び初となる国の認定を受けました。

☎文化振興課(☎66・1019)



文化財保存活用地域計画とは

文化財の保存・活用のために市町村で取り組んでいく目標や取り組みの具体的な内容を記載した、文化財の保存・活用に関する基本的なアクション・プラン。将来的なビジョンや具体的な事業の実施計画を定めて取り組むことで継続性・一貫性のある文化財の保存・活用を可能にします。市では計画に先立ち歴史文化基本構想を策定し、この地域計画にグレードアップさせました。詳しくは、市ホームページでも公開しています。



計画の概要と展望

計画期間は令和3年～12年の10年間。歴史文化の「魅力を探る・学ぶ」「魅力を活かす・発信する」「魅力を引き継ぐ」「魅力を保存・活用する仕組みをつくりだす」「ストーリーを構成する関連文化財群の保存・活用を進める」を基本方針に取り組みます。

行う事業としては、赤れんが倉庫群の保存活用や田辺城跡とその周辺の魅力発信、世界の記憶・日本遺産等の活用祭礼行事の記録保存、さまざまな文化財の調査などがあり、今後も市民の皆さんと一緒に地域に残る貴重な文化財の保存と活用を進めます。

文化財保存活用計画シンポジウムを開催

文化財保存活用地域計画の認定を受け、市内の歴史的遺産の保存・活用とこれからの文化財との関わり方についてのシンポジウムを開催。
【日時】12月5日(日)13時～15時30分
【場所】赤れんが2号棟
【内容】京都府立大准教授の上杉和央さんと京都工芸繊維大名誉教授の日向進さんによる基調講演やパネルディスカッションなど